

「住み続けられるまちづくり」 ～持続可能な都市開発・都市再生のあり方～

国連ハビタット福岡本部は、アジアにおける都市問題や将来直面するであろう課題について、アジア各都市のジャーナリストと共に考え、課題解決に向けてジャーナリストがどのような役割を果たすことができるかについて考えます。

今年で 11 回目となる会議では、特に「持続可能な都市開発・都市再生」に焦点を当て、福岡都市圏の取り組みを参考事例としながら、人口減少、高齢化社会、低成長時代の都市開発のあり方を探ります

◎日時： 2016 年 9 月 28 日（水） 15:00～17:00（14 時 30 分開場）

◎会場： アクロス福岡円形ホール（福岡市中央区天神 1-1-1 アクロス福岡1階）

PROGRAMME

15:00～15:20

- ◎開会挨拶
西日本新聞社 社長 柴田 建哉 氏
- ◎日本の都市の現状についての分析・報告
福岡アジア都市研究所 上席主任研究員 久保 隆行 氏
- ◎事前視察内容報告
国連ハビタット福岡本部

15:20～16:52

- ◎各都市報告
「アジア各都市が抱える現在の都市問題と将来の課題」
【報告者】
・万 里新氏 上海日報（中国・上海）
・ファイザン ハイダール氏 ヒンドウスタン タイムズ（インド・ニューデリー）
・前田 隆夫氏 西日本新聞社（日本・福岡）
・金 銀英氏 釜山日報（韓国・釜山）
・サランチュヤ ツェデブスレン氏 国際ジャーナリスト（モンゴル・ウランバートル）
・ティラーナイ チャラバストラ氏 カオソド紙（タイ・バンコク）
・ファム ホアン アイン氏 ベトナム ニュース（ベトナム・ハノイ）
- ◎パネルディスカッション
「持続可能な都市開発・都市再生について視察先から学んだこと・考えたこと」
【パネリスト】 上記各都市ジャーナリスト 【モデレーター】 福岡アジア都市研究所 久保 隆行 氏
- ◎質疑応答

16:52～17:00

- ◎閉会挨拶
国連ハビタット福岡本部 本部長 深澤 良信

主催：国連ハビタット福岡本部（アジア太平洋担当）

共催：西日本新聞社 後援：福岡県・福岡市・（公財）福岡アジア都市研究所

参加者 プロフィール

万 里新 氏（准論説委員 / 上海日報 / 中国・上海）

Shanghai Daily
上海日報



中国・新疆ウイグル族自治区出身、浙江大学にて修士号取得後、中国日報、中国国際ビジネス誌で記者として勤務。その後 2007 年より上海日報のコラムニストとなり、急速な成長に伴う、環境問題、都市化の弊害、社会や文化の衰退等広い分野で記事を執筆。根本的に考え方や生活様式を変えなければ、持続可能な未来の実現は難しいとの信念を持つ。



ファイザン ハイダール 氏（特派員 / ヒンドウスタン タイムズ / インド・ニューデリー）



2010 年よりヒンドウスタントタイムズでシニアジャーナリスト兼記者として勤務。政治、交通、デリーの地下鉄、航空、女性の活躍や子どもの成長について、更に、人身売買や現代の日雇い奴隷の現状についても記事を執筆。特に、デリー最大の問題である交通網については、飛行機からバスまで幅広くカバーし、デリーの現状を書いた記事は反響を呼び、政府に対応を迫るきっかけとなった。

前田 隆夫 氏（編集局報道センター 部次長 / 西日本新聞社 / 日本・福岡）

 西日本新聞社



広島大学文学部（地理学専攻）卒業。1989 年西日本新聞社入社。本社、東京支社などで政治・行政取材を担当。2007 年-2010 年、九州大学客員准教授（法学部）

金 銀英 氏（副局長 / 釜山日報 / 韓国・釜山）

 부산일보사
THE BUSANILBO



1989 年釜山日報社入社。文化・経済・国際・社会・企画特集部記者と次長を経て、教育チーム長・国際部長・文化部長・マルチメディア部長、そして編集局の副局長を務めた。記者時代、日本の外務省と米国国務省招待研修を持ち、2003 年に日本福岡西日本新聞社で派遣勤務をした。2013 年から編集局シニア記者として勤務している。



サランチュヤ ツェデブスレン 氏（フリーランス国際ジャーナリスト / モンゴル・ウランバートル）



ウランバートル市生まれ。モスクワ大学で国際関係論を学んだ後、モンゴル国営テレビ、MM ニュース社等で勤務。1982 年から 2000 年はモンゴル国民民主党の報道官を務めた。2001 年、米国団体の支援を受けて、モンゴル初の海外テレビ局をワシントンに開設。30 年以上メディア業界に携わり、これまでに政治、環境、ジェンダー、家族、人権等について、仲間と共に 2,000 以上の記事や番組を発信してきた。

ティラーナイ チャラバストラ 氏（記者 / カオソド紙 / タイ・バンコク）



バンコク生まれ。チュラーロンコーン大学歴史学科を卒業後、ロンドンのバークベック大学で政治学の修士号を取得。2012 年よりカオソド紙で勤務を開始し、2013 年からはオンライン英字新聞の記者を担当。近年は、政治、犯罪、裁判制度等タイ社会の興味深い分野について執筆している。西日本新聞にも時々コラムを寄稿している。九州で好きなものは、とんこつラーメン、温泉、進撃の巨人とくまモン。

ファム ホアン アイン 氏（副編集長 / ベトナム ニュース / ベトナム・ハノイ）



2009 年にカナダ・モントリオールのコンコルディア大学で経済を学び、2013 年にはロイヤルメルボルン工科大学ハノイ校でアントレプレナーシップの学位を取得。2014 年に国営ベトナム通信社にてジャーナリスト研修を受けた後、2014 年よりベトナムニュースにて勤務開始。2015 年に国内ニュース担当となり、ベトナムの政治、環境、社会、開発問題等を取材。2016 年よりライフデスクの副編集長。

久保 隆行 氏（上席主任研究員・情報戦略室長 / (公財)福岡アジア都市研究所 / 日本・福岡）



1999 年コーネル大学大学院建築修士課程修了（M.Arch）。森記念財団都市戦略研究所、サムスン物産都市開発本部部長等を経て、2014 年より現職。専門は都市政策、都市経営、グローバル都市研究。

視察先の概要

「福岡大学とUR 都市機構連携による団地活性化活動」

福岡大学とUR 都市機構九州支社は、少子高齢化が進む社会において、団地やその周辺地域の住民の健康や福祉の増進、コミュニティの形成、地域の活性化をどのように進めて行くかについて、連携して様々な取り組みを進めています。

星の原団地では、両組織連携の下、団地の活性化をテーマにした「地域活性支援塾」を開催し、団地住民、商店会、学生の3者協力により、団地住民が気軽にふれあえる「星の原カフェ」を2015年10月にオープンさせました。2016年8月には、高齢者や子ども達の孤食を防ぐ「星の原やすらぎ食堂」も開催。

一方、堤団地では、福岡大学の日本人学生・留学生が団地内にルームシェアという形で入居し、日本人学生と留学生が生活を共にしながら互いの文化への理解を深めています。今後は、団地住民との交流イベント等を開催し、団地内異文化交流を深めて行く予定です。

UR 都市機構では、他の団地、福岡大学以外の大学との連携も推進しています。

「津屋崎千軒プロジェクト」

津屋崎千軒は、福岡市と北九州市のちょうど中間にある人口約5万5千人の福津市にあり、津屋崎漁港一帯の範囲を指します。「千軒」という呼び名は、かつてここが塩の輸出や各地の名産品を輸入する商港として栄え、たくさんの家が軒を連ねていたところから来ています。

しかし、現在は、往時の繁栄ぶりは面影を残すのみとなり、住民の減少や高齢化・空き家の発生等の課題を抱えています。

この「津屋崎千軒プロジェクト」は、新しい視点で人と人、土地と人をつなぎ、津屋崎にもう少し多くの人が暮らす状態にすることを目的にしたプロジェクトで、主に次の3つの活動を進めています。

①福津市の奥座敷、津屋崎の美しさや住みやすさをプロモーション：

この町に暮らすために必要な情報を暮らしている人の目線で発信

②移住者が実際に暮らせるための仕組みづくり：

空家の持ち主、地域の方、移住したい方、不動産屋さんの仲介役となり、プチ移住体験などを通して地域不動産の潤滑油の役割

③エデュケーショナルツーリズムの実践：

観光とは違う視点で、現状の延長線上とは違う新しい視点のまちづくりの発想を、共に学びあう学校を開講

詳しい活動内容はウェブサイトをご覧ください。 <http://1000gen.com/index.html>

「天神ビッグバン」

福岡市天神地区において、「グローバル創業・雇用創出特区」により「航空法の高さ制限の特例承認」を獲得したことを契機に、まちづくりを促す「容積率の緩和」を福岡市の独自施策として実施し、都市機能の大幅な向上と増床を図る計画です。さらに、雇用創出に対する立地交付金制度の活用や創業支援、本社機能誘致なども行います。

このハード・ソフト両面からの施策を組み合わせることで、アジアの拠点都市としての役割、機能を高め、新たな空間と雇用を創出するプロジェクトが「天神ビッグバン」です。

今回は、2016年7月15日にリニューアルオープンした水上公園の再整備事業を視察しました。